

2025年3月14日

2025年原水爆禁止国民平和大行進実施要綱

2025年原水爆禁止国民平和大行進大阪実行委員会

1. 核兵器禁止条約発効を力に！核兵器廃絶の世論を広げ、広島、長崎へ

昨年の国民平和大行進は、連日、35度近くの暑い日が続く中、すべてのコースの行進を行いました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響も残る中で、集会でのマスク着用、歌わず行進などを実施しました。そのような状況ではありましたが、適切に対応いただいた自治体も多く、このことは平和行進の長い歴史で築いた信頼関係を実感するものでした。

また、コロナ感染問題に加え異常気象による酷暑、自然災害によって参加者の安全を守りながら行進することが要求されました。大阪実行委員会は平和行進の様子を大阪原水協 HP で配信などおこない、活気のある行動をアピールし、参加者の気持ちにも応えました。

2025年は、日本被団協が2024年暮れにノーベル平和賞を受賞し、核兵器禁止条約が発効し4年がたち、核兵器禁止条約へさらなる期待が高まるなかでの平和行進になります。核兵器禁止・廃絶に向けて、日本政府に被爆国としての役割を果たさせること、禁止条約に署名・批准する政治を実現させるために、平和行進が築いてきた自治体と市民との共同を広げ、核保有国の反核平和団体と連帯し、日本から世界へメッセージを発信することが重要です。

とりわけ、ロシアによるウクライナに侵略から3年もたち、核兵器の使用で威嚇を繰り返す中で核兵器使用禁止・廃絶の訴えが極めて重要です。また、停戦にはなっていますが、パレスチナ・ガザ地区へのイスラエルの無差別攻撃のなかで、イスラエルのある閣僚は核兵器の使用まで言及しました。「ガザに核爆弾を落とすのも選択肢の一つ」と発言したのです。今まさに核兵器使用の脅威が増している状況です。

今年も、例年通り感染防止の対策をしっかりと取りながら行進をおこない、自治体要請、宣伝カーの運行、SNSの併用、オンラインの情報配信、核兵器廃絶への願いを託すペナントなどこれまでの成果や「歩く」ことにこだわって横断幕を繋いできた平和行進の意義と教訓を生かし、核兵器禁止条約を力に日本政府に核兵器廃絶の先頭に立つよう求める圧倒的な世論を広げます。

原水爆禁止国民平和大行進は、1958年にたった1人の行動から始まりました。それ以来、毎年すべての都道府県で被爆者の願いをあつめ、被爆地広島、長崎をめざし、歩いてきました。今年も被爆者の願いすべての方とすべての地域で、以下のことを目標に、共同・協力の発展をめざします。

なお、今年は例年どおりの行進になりますが、すでに議論を開始しているように、来年大阪の全日程を午前中にする方向での議論を行っていただきますようお願いいたします。

2. 名称 2025年原水爆禁止国民平和大行進

3. 主催 原水爆禁止国民平和大行進大阪実行委員会

4. 共通スローガン

- 被爆 80 年、核兵器も戦争ものない平和な世界をつくろう
- ・ 核兵器禁止条約に参加しよう！すべての国に参加をよびかけよう
- ・ 核保有国に、「核軍備の完全廃絶」の約束を実行させよう
- ・ 核保有国は、核兵器使用の威嚇をただちにやめよ。核兵器の増強・近代化、核・ミサイル発射実験いまずぐ中止を
- ・ すべての戦争に反対！NO WAR！ガザの人びとの人権を守れ
- ・ イスラエルはパレスチナの占領をやめよ

- 日本は核兵器禁止条約にいますぐ参加を！核兵器で安全は守れない！ストップ戦争準備・大軍拡
 - ・ ストップ・アメリカ言いなり・大軍拡！ 43 兆円の軍拡やめて、お金は国民の暮らしに！
 - ・ 沖縄・辺野古の米軍基地の建設いますぐ止めよ！ 南西諸島のミサイル配備やめさせよう！
 - ・ 戦争しないと誓った憲法 9 条でこそ平和を！
 - ・ 憲法活かした平和外交を！
- 被爆者のねがいをみんなの願いに 被爆者の声を世界にひろげよう
 - ・ 広島・長崎の被爆者を支援しよう！ 国家補償による被爆者援護を！
 - ・ 原爆放射能被害にあったすべての被爆者の援護を！ 「黒い雨」被災者に被爆者健康手帳の交付を！
 - ・ 政府は、ビキニ水爆実験被災者の実態調査、謝罪と補償を直ちに開始を！
- いのち、くらし、だれもが生きる権利を
 - ・ ジェンダー平等、格差のない社会へ力をあわせよう
 - ・ いまこそ原発ゼロの決断を！ 再生可能エネルギーへの転換を！
 - ・ 福島原発事故被害者へ補償を！ アルプス処理水の海洋放出はいますぐ中止を！
 - ・ 能登地震の被災者への支援、復興を！
- 核兵器のない世界、非核平和の日本の実現をめざして立ち上がろう！
 - ・ 「非核日本キャンペーン」にとりくもう！
 - ・ 非核平和のねがい署名にたくし、原水爆禁止 2025 年世界大会へ
 - ・ ノーモア・ヒバクシャ、ノーモア・ウォー

<大阪実行委員会の独自スローガン>

- ◇ 大阪湾・大阪港に核艦船は来るな！
- ◇ 関西空港、大阪空港、八尾空港の軍事利用反対！
- ◇ 関西電力は原発の再稼働をするな！
- ◇

5. 日程、コース、責任団体

(1) 日程は昨年どおり、6月30日に柏原市で奈良県から受け継ぎ、7月7日に兵庫県へ引き継ぐ。

(2) コースは、昨年のコースを中心に地元と相談して決める。

(3) 責任団体

{幹線コース}

- * 6月30日(月) 柏原市役所～東大阪・岩田公園(大阪原水協)
- * 7月1日(火) 河内長野市役所～松原市役所(大教組)
- * 7月2日(水) 泉佐野市役所～和泉市役所(大教組)
- * 7月3日(木) 和泉市役所～堺市役所(自治労連)
- * 7月4日(金) 住吉区役所～旭区役所(大阪民医連)
- * 7月5日(土) 守口市役所～枚方市役所(自治労連)
- * 7月6日(日) 高槻市役所～吹田市役所(自治労連)
- * 7月7日(月) 豊中市役所～川西市役所(大教組)

{主な網の目コース}

- * 7月4日(金) 大正区役所～南森町・幹線コースに合流(大商連)
- * 7月4日(金) 平野区民ホール～教育塔前・幹線コースに合流(地元実行委員会)
- * 7月4日(金) 西淀川区役所～東淀川区役所(地元実行委員会)

* 7月5日（土）大東市役所～枚方市役所（地元実行委員会）

* 他 12コース（別紙参照）

6. 具体的な取り組み

- (1) これまでの平和行進の成果を生かし、自治体首長・議長はじめ、核兵器廃絶を願う団体・個人に、参加、協賛、メッセージなどをよびかける。非核宣言都市、平和首長会議加盟の自治体はもちろん、すべての自治体を歩く行進とするよう全力をあげる。
- (2) 行進が通過するすべての市区町村で、「唯一の被爆国日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」の行動を計画する。
- (3) 行進の前段階に全自治体を訪問し、核兵器禁止条約の意義を伝え、署名への協力、原水爆禁止世界大会への賛同・参加、原爆展の開催など非核平和行政の拡充・具体化を要請する。「日本政府に核兵器禁止条約への参加」を求める。自治体議員懇談や会派要請を行い、意見書の採択を要請する。
- (4) 普天間基地撤去、新基地建設反対、原子力空母母港化の撤回、米艦船の寄港反対など米軍再編・日米同盟強化に反対する運動と連帯し、非核日本の世論をひろげる。
- (5) 世界大会参加の青年に声をかけるなど、青年の創意や要求をとり入れる。青年に参加を呼びかける。
- (6) 日々の出発・集結集会での被爆者の訴えなど、被爆者と連帯した行進にし、出発集会や市役所前集会・集結集会などで被爆者援護募金にとりくむ。
- (7) コース毎に実行委員会を開き、成功のための具体化をすすめる。
- (8) 行進ステッカー、ペナント、リーフレット、行進うちわ、アナウンステープなど、行進資材を作成し普及する。
- (9) 猛暑日、大雨警報など悪天候等により行進者への影響が危惧される場合には、現地実行委員会の意見を聞いて大阪実行委員会において中止若しくは続行の判断をする。
- (10) 緊急時に備え、行進の最後尾に看護師を同乗した後続車を配置する。

7. 大阪府内通し行進者の募集

2025年は府内の通し行進は行います。別紙要領参照

8. 大阪実行委員会の構成

- | | | |
|-----------|-----------|----------------|
| (1) 代表委員 | 福岡泰治 | 大阪労連議長 |
| | 杉本 和 | 新婦人大阪府本部会長 |
| | 川辺和宏 | 大阪原水協理事長 |
| (2) 事務局長 | 橋口紀塩 | 大阪原水協事務局長 |
| (3) 事務局団体 | 各コースの責任団体 | |
| (4) 会計監査 | 山本匡人 | 平和のための税理士たち事務局 |

9. 宣伝と財政について

- (1) 平和行進成功のためビラ等作成する。
- (2) ホームページを充実させ、行進をアピールしていく。
- (3) 網の目行進用の先頭横断幕を作成していく。（3年計画で）
- (4) 財政については、全体で103万円程度の予算を組み、収入は実行委員会の参加分担金、自治体の協賛金で賄う。集会などや沿道募金は被爆者募金とする。

10. 新型コロナウイルス対策・熱中症対策等について

国民平和大行進実行委員会事務局からは「参加者のケガや事故、熱中症など、懸念されている不

安を解消するため、保険への加入をお勧めします。すでに活用している県の実行委員会からの詳細情報を共有します。」「体調不良、感染症の対応について、指定感染症等発生した場合は、感染症毎に行政機関の発行するガイドラインを基に、県実行委員会との協議の上、参加者の対応を行いましょ。すこしでも体調が悪い方は無理せず参加を見合わせましょ。」「気象条件や交通事情を鑑み、行進コース・行進時間帯を検討ましょ。天気予報で警報が発令された場合は、すみやかに行進を中断、中止することをはじめ、注意報の段階でも参加者の安全を第一に考えて、各都道府県実行委員会の責任で判断をましょ。」「としている。

上記の要請を踏まえるとともに、コロナ感染は増加していること、年配者が多いこと、長いコースであることなどを踏まえ、原則、歌いながらの行進は行わない。宣伝カーから録音でピースコール、音楽を流すようにする。地域や団体においては、ソーシャルディスタンスを保ちながら行進し、行進ペナント、行進フラッグ、鳴り物など創意工夫し、沿道者への宣伝や出発集会、集結集会など被爆者募金をお願する。